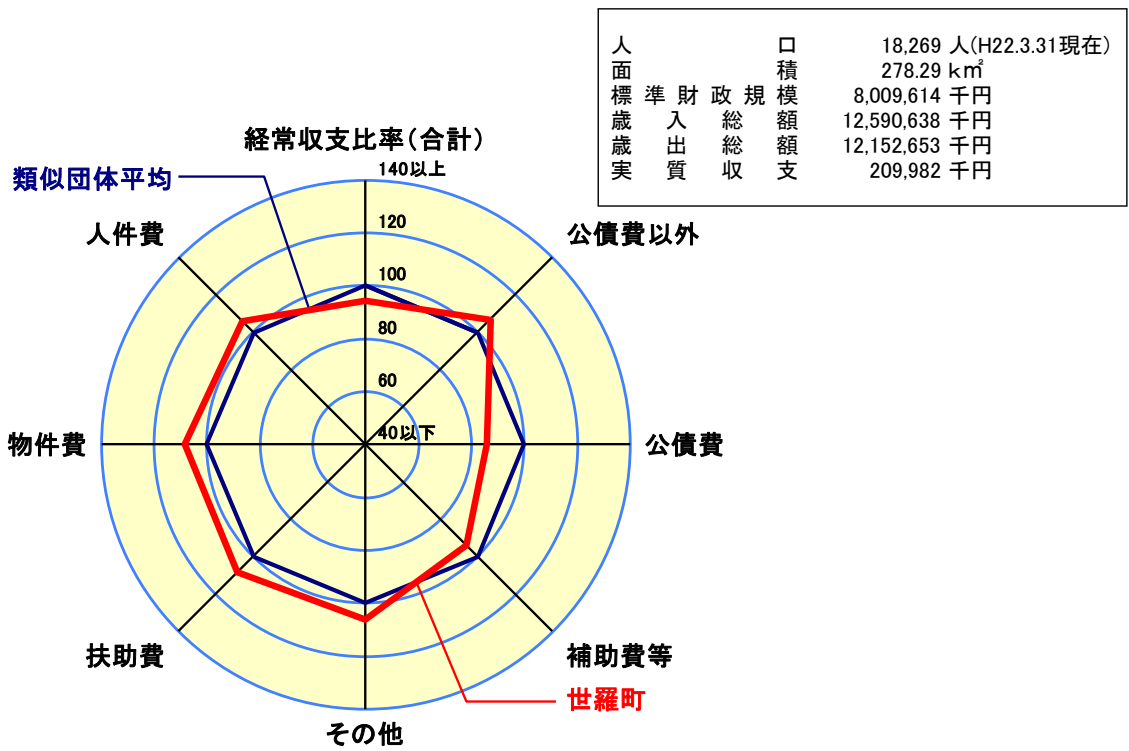
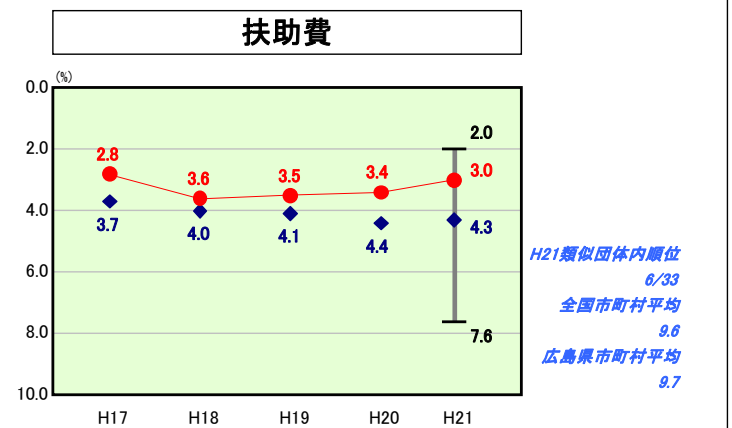
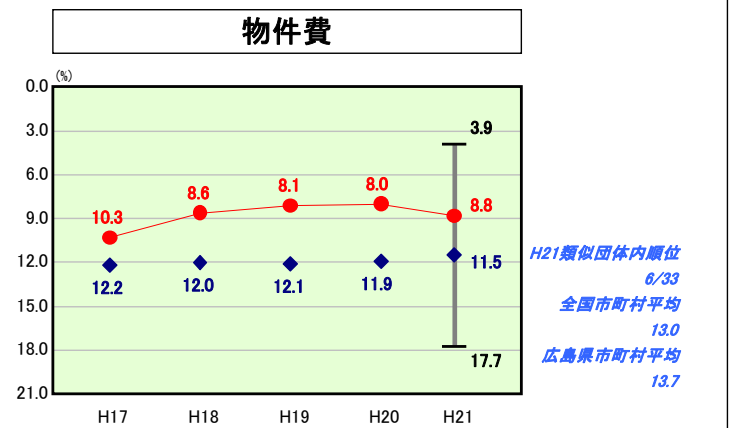
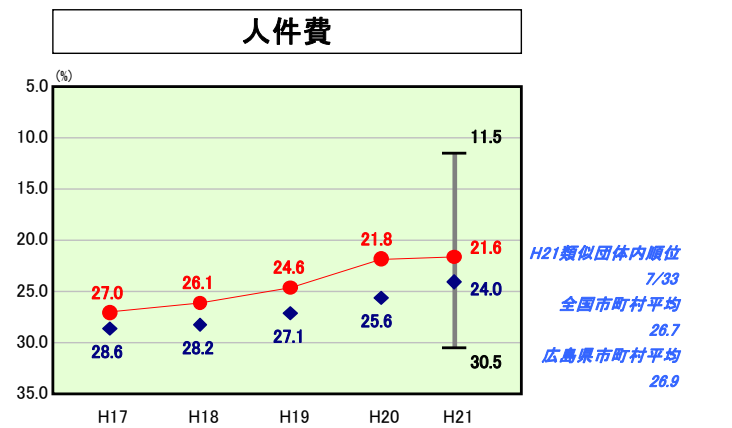
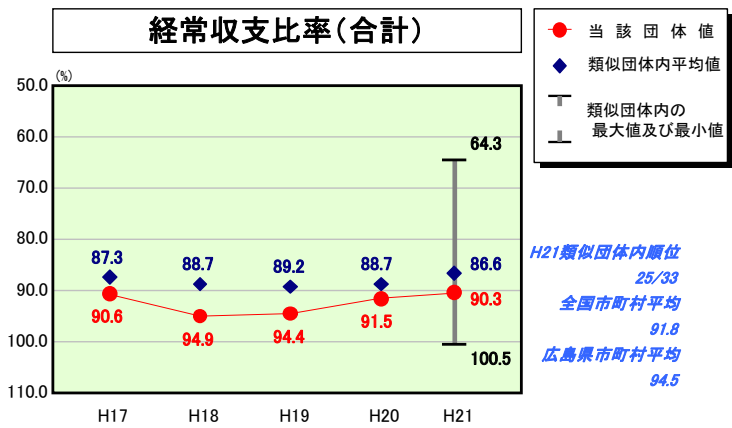


歳出比較分析表(平成21年度普通会計決算)

広島県 世羅町

経常収支比率の分析



- ※ 1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【経常収支比率】

経常経費比率については、90.3%と昨年と比較して1.2ポイント下回っている。本町の財政構造は、歳入総額のうち自主財源の柱である町税は15.5%であり、地方交付税等の依存財源に頼らざるを得ない状況となっている。また、義務的経費が43.0%を占めるなど、弾力性に乏しい状況が続いている。今後扶助費、繰出金の上昇が見込まれるが、引き続き行政改革による経常経費の削減に努める。

【人件費】

人件費による経常経費は、議員報酬の減及び普通建設事業に伴う事業費支弁の増により前年度と比較すると0.2ポイントと若干の減となっている。しかしながら、今後は平成17年度から実施していた給与カットが終了したことや、大幅な普通建設事業の増も望めないことから、定員適正化計画による適切な定員管理や、民間への指定管理者制度の導入など、コストの低減化を図っていく必要がある。

【公債費】

公債費については、合併した平成16年度以来ほぼ横ばいの比率になっている。数値的には依然高い数値となっており、類似団体平均を8.9ポイント上回っている。公債費の償還は平成20、21年度がピークとなり今後は減少傾向になっていくが、公債費負担適正化計画に基づき新規発行債の抑制や、積極的な繰上償還の実施などにより町債残高の縮小と公債費負担の軽減に取り組む。

【補助費等】

補助費に係る経常収支比率については、昨年度と比べ若干減少したものの、依然公営企業会計などへの負担が大きく類似団体平均と比較すると2.7ポイント上回っている。補助費については、今後も執行内容を精査し、見直しや廃止など効果的な予算執行に努める必要がある。

